

境川遊水地 現地見学用ワークシート（案）

<目的> 「遊水地」の役割やビオトープの自然環境への理解を深める。

<方法> 「下飯田ビオトープ」外周にそって歩き、観察場所 ①～④（マップに記載）で「問い」に答えながら観察する。

①. 場所：下飯田ビオトープ「藤棚」前

内容：ビオトープの自然環境と野鳥の観察

目の前の池は「下飯田ビオトープ」です。水の中の魚や昆虫、それを食べる鳥や動物など、たくさんの生きものたちが暮らしています。また数千kmを旅する渡り鳥たちが立ちよって羽をやすめ、食べものをえる場所にもなっています。

●大きな鳥が木の上や草のかけなどにいます。探してみましよう。

じっくり見ると小さな鳥もいますよ！

空の上を飛んでいるかも!!

●鳥たちは鳴き声でコミュニケーションをとります。耳をすまして、鳴き声を聞いてみましょう。

②. 場所：「沈砂池（ちんさち）」

内容：沈砂池のまわりや水中の生きものの観察

この池は「沈砂池」（ちんさち）といいます。ビオトープとの間に水門（すいもん）があり、境川から水が入り、グラウンドにたまった後、この水門を空けて水を元へと戻します。また、水門をとおして池に小さな生きものたちがやってきて、それを食べるサギなどが集まります。水の中やまわりにいる生きものを観察してみましょう。

<見つけた生きもの>

③. 場所：橋詰広場（はしづめひろば）下

内容：遊水地へ水が流入した時の水位を現地の目盛で実感！

今、立っている場所は、境川の水が入って来たときは、水の下となります。
2016年8月22日には、あの目盛の1mのところまで水がたまりました。
そのときの様子を想像（そうぞう）してみましょう。

※（現地に目盛スケールを設置）

④. 場所：鷺舞橋（さぎまいばし）

内容：「境川」と「遊水地」（池とグラウンド）を一望し、しくみや大きさを実感する。

「境川」と「遊水地」（ビオトープ池、グラウンド）を見てみましょう。

●境川とビオトープ池の境の堤防で、一部、低く作られているところがあります。
これは「越流堤（えつりゅうてい）」といい、境川の水の量が増えた時、ここから
ビオトープ池へ水が入って来ます。

●境川の水が入ったとき、このビオトープ池もグラウンドも水の下となります。
2016年8月22日、水が入ったときの写真とくらべてみましょう。

※流入時（2016年8月22日）の風景の写真パネルを準備

★周りの住宅や田んぼへ水があふれないように、「遊水地」は周辺より深く、作られています。

< 発展例 > ～状況によってテーマを発展させる場合の例です～

●境川や和泉川の両脇には段丘の斜面が続いています。この斜面に挟まれたところは、かつて境川や泉川が蛇行し、氾濫を繰り返した場所です。
川が削って作った地形（→段丘）が今も残っているのです。

●境川や和泉川のまわりには田んぼが広がっています。ここは、かつては川が氾濫する場所（氾濫原）でした。川によって運ばれた山の栄養分に富むこと、また水利用がしやすいことから、長く、田作りが行われてきました。